

建設経済

常任委員会

経済課関係 歳出

- ・農業総務振興費 修繕費 185万円（ロマン館エアーコン修理、天井修理他）
- ・工事請負費4千116万円（ガラス工房解体・建築）
- ・農地・水・農業環境保全活動支援30万6千円（菊水西区）
- ・新規就農者対策支援助成金140万円
- ・果樹産地構造改革支援事業補助金448万円
- ・地域営農組織育成緊急支援事業80万円
- ・団体営圃場整備事業費、工事請負費7千453万円（日平地区）
- ・農地流動化事業補助918万円（貸手227名、借手144名）46・5ha
- ・商工費 菊水町商工会750万円、三加和商工会200万円
- ・観光費 交流センター・あ

建設経済常任委員長

北原 芳史

ばかん家・民家村・施設修繕費489万円、建物調査委託料260万円、古墳祭実行委員会補助金1千万円、戦国肥後国衆祭実行委員会補助金400万円

災害復旧費2千173万円、単県治山事業（三加和一ヶ所菊水六ヶ所）

合併処理浄化槽設置整備事業補助金9千310万円

土木費補助金3千455万円

建設課関係

合併処理浄化槽設置整備事業補助金9千310万円

土木費補助金3千455万円

道路維持費 工事請負費3千299万円（菊水8件、三加和15件）

道路改良費 工事請負費2億4千831万円

農地等災害復旧費 工事請負費6千97万円（菊水51件、三加和13件）

公共土木施設災害復旧費 工事請負費6千415万円

（河川災害19件・道路災害12件）

和水町簡易水道事業3千360万円

和水町下水道事業会計 工事請負費5千305万円（和水町汚水大江田枝線管渠増築工事他10件）

和水町特定地域排水処理事業（合併浄化槽5人槽4基・7人槽20基・28人槽1基・30人槽1基）合計26基

工事請負費6千153万円



和水町政治倫理調査会の結果報告について

和水町政治倫理調査会々長 小山 暁

去る7月25日付けで、和水町江田4415番地2の池田龍之介氏より、和水町議会議員の政治倫理に関する条例第10条の規定に基づき、和水町議会議長宛に調査請求書が提出されました。

記

● 疑義あると認められる者の氏名 杉村幸敏議員

● 調査請求内容

「条例第2条第1項に該当の疑い」

* 議員は、町民の信頼に値する倫理性を自覚するとともに、町民に対し、自ら進んでその高潔性を実証するよう努めなければならない。

● 調査結果
抵触しない。

その根拠は、政治倫理に関する条例第2条第1項に抵触するような確証は認められない。

陳情・要望の採決結果

陳情・要望内容

審査結果

議会選出による和水町監査委員・杉村幸敏（議員）の辞職勧告を求める要望書

継続

『道路整備の促進及び財源の確保に関する意見書』議決の要請

採択

町道・日平瀬戸ヒュウム管交換による陳情書

採択

有明広域行政事務組合議会報告

広域議員 田上原 一

平成19年度も早、六ヶ月が経過する中、有明広域議会も第三回の議会定例会が7月19日開催された所であります。

今議会の議案の提出は、主に財産取得に係る案件で、当初予算にも計上されておりました、高機能消防通信指令センター総合整備料、機器購入の金額が提示され、全会一致で採決を見た所であります。

現在機能運営されている機種は、平成6年に導入された機械であり14年が経過しようとしている、耐応年数が約10年と言われている中修理、補填を重ねながら使用されているが、老朽化が進み、今回の新規導入となっている。

機種の選定、業者選定、入札価格は次の通りである、

①日本電気(株)熊本支店、金額1億6千688万円、②沖電気工業(株)、2億4千万円、③(株)富士通、2億3千800万円、④日本無線2億6千万円、⑤(株)日立製作所3億6千400万円、⑥西日本通信、(辞退)、以上業者名、入札希望額が提示され、指名競争入札の結果、最低価格を提示された、日本電気(株)熊本支店が落札となった。

当初予算額を3億5千万円、落札価格と大きな差がある為、広域議会でもだいたいじょうぶかとの不安の声も上がったが、企業努力による低価格と言う事で、納得をし、全会一致で採決を見た所であります。又、この機種に付随するシステムである、新発信地表示システム整備も同時に入札が行われていて、西日

本電信電話(株)が、他に競合する会社がなく、随意契約の形で、2千261万円で落札している。新発信地表示システムとは、一般固定電話より、緊急通報(119)番に対して、瞬時に通報者を特定出来るシステムである。又、最近最も多く使用されているケイタイ電話からの緊急通報でも、GPS機能付のケイタイであれば、通信回線を利用して、正確な位置がわかると同時に、GPS機が付いてない機種においても近くの中継塔を割り出しほば数百Mの範囲で位置がわかると言う機種である。又、この事業の監理、監督業務を(財)日本消防設備安全センターに委託、委託料が350万円が発生する。

高機能消防通信指令センター総合整備事業費総額2億134万円となった。

当初予算額の57・5%で落札、平成20年4月1日より許容開始される、大きな財産の取得は以上である。

その他の事業で19年度当初予算に盛り込まれ、事業の決定を見ていた、第二清掃センター焼却灰野積放置処理事業を、梅雨明け後に計画していた件には、梅雨明け後、直ちに、地元区長さん、地権者、広域議員を交え説明会が行われ、設計入札を行い工事に着手している所である。

業者を6社選定し、(地元和水町の業者)旧菊水4社、旧三加和2社、6社入札に参加旧菊水、菊水建設が落札、当初予算額1千200万円、落札価格約1千万円、落札率、84%工事期間、8月～12月迄の予定。まず野積灰を同敷地内の最終処分場へ移設、約2千500㎡強、最終処分場へ移設後表土を50cm程度(表土は良い土)を外部から搬入し、最終処分場の部分にくぬぎの木を200本程度植林する計画となっている。

又、野積灰を除去後現状

復帰し、この部分にもくぬぎ50本程度植林する。埋めもどしする土は清掃センター内の小高い丘を掘削しその土で現状復帰。

長年地元住民の不安、心配であった処理灰の流出がなくなったと思われま

す。尚焼却炉、ストックヤード棟、その他の施設は4年後に完全に解体撤去となります。

平成19年度より広域組合で基金積立てしており、最終的に跡地利用については、町、地元住民の意向を聞き、整備していくという考えであります。

以上広域組合議員報告と致します。



有明広域行政事務組合議会の議案審議風景